

土岐上平遺跡 現地見学会



令和元年8月25日(日) 13:30～
主催：岐阜県文化財保護センター

写真1：竪穴建物②床面検出状況

1 遺跡の立地及び発掘区の位置

土岐上平遺跡は、瑞浪市を東西に流れる土岐川の左岸に発達した段丘上に位置しています。過去に瑞浪市が実施した遺跡詳細分布調査では、須恵器や中近世陶磁器等が採集されています。今回調査した範囲(図1の赤色部分)は段丘の縁の部分で、地表面が東から西に向けて緩やかに傾斜する場所にあたります。

土岐上平遺跡調査データ

所在地：岐阜県瑞浪市土岐町

調査面積：1,160㎡

事業者：国土交通省中部地方整備局多治見砂防国道事務所

事業名：国道19号瑞浪恵那道路建設

調査期間：令和元年6月～8月



図1：土岐上平遺跡位置図

2 主な調査成果

5棟の竪穴建物を発見！

今回の発掘調査では、土坑や溝状遺構の他に、複数の時期のものと考えられる竪穴建物を5棟検出しました（図2）。

発掘区東部で検出した竪穴建物①（写真2）は、多くの部分が土地の改変の影響で消失していましたが、建物の壁に沿って壁際溝を検出しました。壁際溝は壁押さえの板材を据え付けるために掘られた溝だと考えられます。



写真2：竪穴建物①完掘状況

発掘区中央部では竪穴建物②を検出しました（写真1）。埋土中から弥生時代末から古墳時代初頭のものと考えられる土器や石器（石鏃・打製石斧）が出土しました（写真3）。また、床面は土を硬く締めて構築しており、その中央部には、石を配置した炉（写真4）を検出しました。



写真3：石鏃出土状況

発掘区西部で検出した竪穴建物③からは、北東部の隅から弥生時代末から古墳時代初頭のものと考えられる土器が多数出土しました。また、埋土には炭化材や炭化物が多く混じっていました。

同じく、発掘区西部では竪穴建物④⑤を検出しました。これら建物にはカマドがあり、床面の土坑の中から須恵器が出土したことから、古墳時代から古代のものであると考えられます。



写真4：竪穴建物②炉検出状況

3 まとめ

過去の分布調査では、須恵器や中近世陶磁器などが出土したことから、土岐上平遺跡は古代から中世にかけての遺跡であると考えられていました。今年度の発掘調査によって、弥生時代末から古墳時代初頭のものと考えられる竪穴建物が発見されたことや、縄文土器が出土していることから、本遺跡では古くは縄文時代から人々の生活が営まれ、弥生時代末から古墳時代初頭には集落域となっていたことが分かりました。

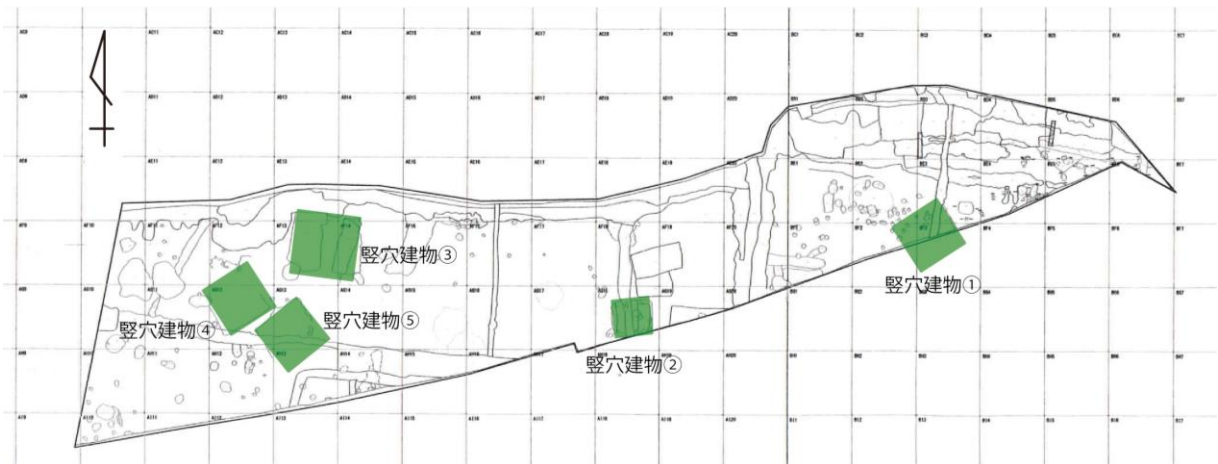


図2：土岐上平遺跡遺構配置略図（1/500）